平成２９年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立坂本小学校　教諭　虻川　幸平

１　派遣期日　　平成２９年８月１９日（土）

２　研修先　　東京学芸大学附属大泉小学校
所在地　東京都練馬区東大泉５－２２－１
http://www.es.oizumi.u-gakugei.ac.jp

３　研修内容

研究会テーマ　　Input を大切にし，児童が自信をもって output したいと思える活動づくり （１）　全体会 （２）　公開授業 （３）　講演会「小学校での英語教育について」 東京学芸大学　教授　粕谷恭子先生

（１）全体会

東京学芸大学附属大泉小学校は以前から「国際社会に活きる『豊かな学力』の育成」をテーマに研究を積み重ねてきている。その中でも英語教育を重点的に実施している。全体会では，授業づくりにおいて重視している３つのポイントが挙げられた。

・たくさん英語を聞かせる。
・話させようと急がせすぎない。
・一つ一つを丁寧に。（単語だけでなく，文で答えられるように）

上記の３つのことを踏まえ，英語を聞かせることに重点をおいて授業を行っているとのことであった。また，英語を聞かせる（Input をさせる）場面においては，ただ何となく聞かせるのではなく，「聞く必然性」や「聞きたいと思える場面設定」を重視している。このように聞く場面を工夫した十分な Input が自然な Output につながるとの考えに沿って授業づくりを行っている。

（２）公開授業参観について

○　第６学年　英語科
○　単元名　「自分が行きたい場所” Where do you want to go?”」
○　本時の目標
・質問されていることを理解し，行きたい場所を英語で答えることができる。
○　展開

①英語であいさつ
曜日や日付，天気などを確認

②英語の歌を歌う
If you’re happy を教師と共に歌う。手拍子を入れるなど体を使いながら実施していた。

③絵本の読み聞かせ
”Ten Little Rubber Ducks”という絵本を活用して読み聞かせを行った。１０匹の Rubber Ducks が海上で自分の行きたい所を述べる内容であり，本時の言語事項へのつながりがあった。

④教師と児童が英語で質問・応答
夏休みも残り１週間となったが，「もしどこかに行けるとしたらどこに行きたい」という場面設定であった。教師の Where do you want to go?という質問に対し，児童がそれぞれ I want to go to Hokkaido.などと意見を述べていく。児童からの質問を受け，教師は He wants to go to Hokkaido.と He や She などの代名詞を自然と導入したり，児童が発言した内容を板書することで音と文字とのつながりを意識させたりしていた。

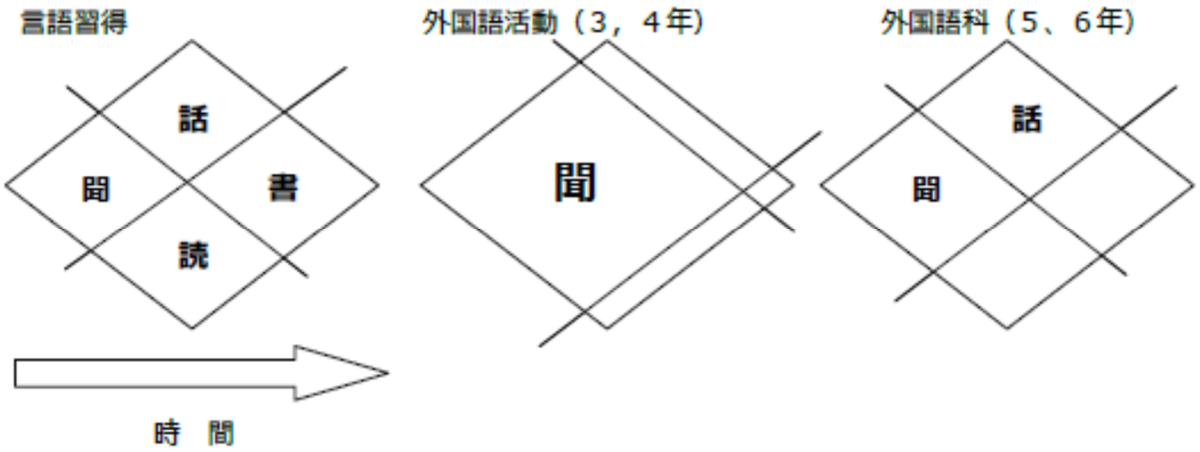
（３）講演　　「小学校での英語教育について」
東京学芸大学　教授　粕谷恭子先生

①英語科の授業づくりのポイント

・人がものを話すためには，たくさん聞かせることが大切である。たくさん聞いていないから言えない。英語についても同じ事が言える。言語習得の大原則は，音から文字である。
・授業中は日本語を減らして，できるだけ英語を聞かせる。授業の英語度を上げる。
・“気付き”は大人には面倒で，待つことができない。じっくりと子供の“気付き”を待てる教師でありたい。
・授業を行うのは基本的には学級担任であるが，学級担任が無理をしすぎないことが大切である。英語が苦手ならばALTが言ったことを繰り返すだけでもよい。大切なことは担任が英語を使用しているところを児童に見せることである。
・７０時間中３５時間をモジュール（短時間の学習）にあてるのは難しい。モジュール学習は学級経営がしっかりできていないと有効に使うことはできない。

②今後の小学校外国語科・外国語活動について

・小学校３年生から高校３年生までの１０年計画で英語教育を進めていくというイメージをもつこと。そのため，小学校３，４年生の外国語活動ではとにかくたくさん聞かせることが大切である。また，小学校５，６年生の外国語から４技能を学習するとは言え，聞くことと話すことを重視して学習を進めることが大切である。



＜英語４技能の習得の流れと教科別英語４技能重点指導内容について＞

・外国語科としての評価は２０１８年度，２０１９年度で準備していく。

４　感想

今回の研修を通して，今後の英語教育の在り方や現在の英語教育の問題点について再認識することができた。我々が母語である日本語を習得したように話せる英語の習得には，聞くことを重視していく必要性を理解できた。そのような趣旨を踏まえて，外国語活動や外国語科を実践していきたいと思う。また,児童の発達段階に合わせた指導法の重要性に気づいた。私自身，中学校英語教師として今まで英語教育に携わってきた。中学校での経験から小学校で外国語活動を行う中で中学校の指導が生きた場面と共に，自分の指導法が小学生の実態に合わないという場面も数多くあった。自分が担当する児童の実態をよく理解して，授業を実践していきたいと思う。そして，小学校３年生からの１０年間という期間を意識し，英語教育のゴールをしっかり見据えた上で，外国語教育を実践していきたいと思う。

研修を振り返り，今後は今まで以上に目の前の子供たちの声を大切にしながら，自己研鑽に励んでいきたいと思う。